

嚶鳴祭 その2

「嚶鳴祭」第一日目である8月26日（金）は、山形市民会館において、弁論大会及び文化部のステージ発表が行われました。弁論大会の弁士や文化部の部員たちは、この日の発表に向けて、厳しい練習を重ねてきました。今回も、保護者の皆さんをはじめとして多くの方々にステージ発表を観ていただきました。

「開祭式」では、生徒と教員が力を合わせてパフォーマンスを演じ、OBS委員長のカウントダウンで嚶鳴祭がスタートしました。引き続き行われた「弁論大会」では、8名の弁士が日頃考えていることを熱弁しました。自分の辛い経験から学んだこと、日本や世界で今起こっている出来事についての自分の考えなどを堂々と主張し、聴衆の共感を呼びました。

続いての「音楽部発表」では、東北コンクールを間近に控え、毎日の練習で練り上げた素晴らしいハーモニーを聴かせてくれました。コンクールで演奏する曲の他、3年生だけによる演奏や、東日本大震災で被害に遭われた方が書いた詩をもとにつくられた曲「わせねでや」をじっくりと聴かせてくれました。

「箏曲部発表」では、1・2年生それぞれ1曲ずつ演奏しました。本格的に楽器をはじめてまだ数か月しか経っていない1年生が堂々と演奏している様子、2年生が技術的にも音楽的にも難しい曲を立派に演奏している様子に感銘を受けました。

午後のはじめは「演劇部発表」です。かつて飢饉や戦争に苦しんだ日本と、一見すると何不自由なく暮らすことができる現在の日本。人間の幸せとはいったい何なのか、を考えさせられた部員による創作劇「ママ、ドントクライ」。演劇部員の熱演に、聴衆は思わず惹き込まれました。

「放送部発表」では、NHK杯全国高等学校放送コンテストや全国高等学校総合文化祭など全国の土俵を経験し、他校の優れた作品に学びながら確実に力をつけてきた部員たちが制作したビデオ作品、ラジオ作品を披露しました。

今回も、日頃の練習の成果を市民会館の立派なステージで、しかも多くの皆さんの前で発表することができました。非常に幸せなことです。今後、西高生の文化活動の水準がさらに高まっていくことを期待します。

